

(別紙)

成果の説明書 令和元年度

富澤一弘	経済学部経済学科 教授 博士(学術)
重要事項	
1 科学研究費補助金(基盤研究C 平成23-27年度「近代日仏間生糸・絹織物貿易史の研究ーリヨン絹織物業組合の原史料を中心にー」)の調査で持ち帰った大量の史料の閲覧・翻刻・分析・考察。	
報告者は、直近では、平成30年12月23日(日)-1月6日(日)まで、現地史料調査を実施して、19-20世紀前半の日仏生糸・絹織物貿易に関する仏文史料・原文書等を、1万枚余複写して帰国している。	
これらの史料は、わが国にはコレクションとしては、全く存在しておらずー国会図書館にも、他の有名な史料所蔵機関にもみられないーフランス国内の蚕糸業・絹織物業関連の業界紙・誌等であり、フランス側から当該期のシルク貿易史を研究する際の、知られざる最重要史料である。	
報告者は、今後とも、本研究を最重点の研究課題として継続・深化させていくつもりであり、さらに令和3年度の史料集刊行、令和4年度の論文集刊行を目指して、孜孜として努めていきたい、と考えている。	
2 国内史料所蔵機関における史料調査	
1の研究・調査の補充調査として、首都圏、東北-西日本エリアにおいて、生糸・絹織物貿易に関する文献蒐集を行っている。これらは、明治-昭和前期のシルク産業に関する史料が中心であり、他に紡績、金融に関する文献等も含まれている。令和2年度以降も、これら補充調査を、エリアを拡大しつつ、継続していく予定である。	
3 研究会における報告	
① 富澤一弘「大正後期における日本製生糸の評判について-米国市場を中心にして-」(群馬歴史研究会、令和元年8月18日(日)、群馬県桐生市黒保根町)。	
② 富澤一弘「昭和6年-10年における日本製生糸の評判について-米国市場を中心にして-」(群馬歴史研究会、令和2年2月9日(日)、群馬県桐生市黒保根町)。	